

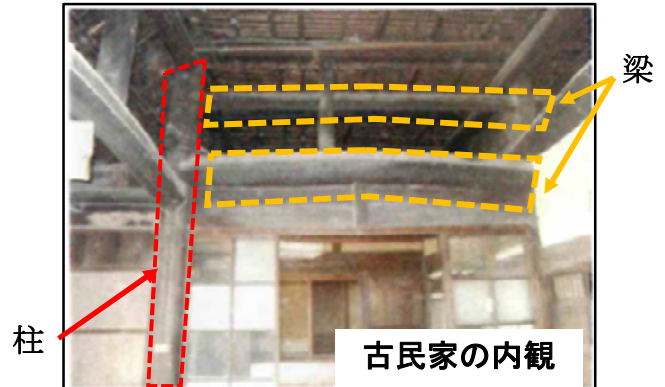
古民家の概要及び関連計画での位置づけ

1 古民家の概要

- (1) 延床面積 約 130 m²
- (2) 江戸時代後期～末期（約 200 年前）に現在の瀬戸市品野で建築
- (3) 明治時代に岩作石田地内に移築された市内最古級の古民家
- (4) 2本の太い梁と柱があり、「神社の鳥居」に似ていることから「鳥居建て形式」といわれる尾張、西三河地方の伝統的な農家住宅の形式を残した建造物



古民家の外観



柱

古民家の内観

2 古戦場公園再整備基本計画における古民家の位置づけ

東側ゾーン⇒国指定史跡長久手古戦場や小牧・長久手の戦いを知ろう。

西側ゾーン⇒市の歴史・民俗を知り伝統的な暮らしを体験しよう。

※歴史民俗資料館を整備し、古民家はその附帯施設とする。



計画配置図



歴史民俗資料館と古民家のイメージ

3 市民の力を活かした古民家建築

土壁塗り（竹木舞づくり）、土間たたきの仕上げ等の様々な作業を市民参加で行うことを想定している。



竹木舞を組む作業



土壁塗り作業



土間たたきの作業